

ビジョンマップ策定ワークショップ第2回目開催！

第2回ビジョンマップ策定ワークショップ

進行：山梨・大月生涯青春大学プロジェクト
プロジェクトコーディネーター 山本 聖
ワークショップサポート 小林 義幸



第一回に引き続き、12月18日（土）13：30～17：30に、第2回目のワークショップが実施されました。大月市の資源を掘り返し、再確認した第一回のシートの振り返りから、大月市の魅力を外に向けて発信する＝ビジネスとして成立させる観点から、適時、適品、適量、適所、適価の『五適』を意識しながら様々な年代、立場の参加者がA～Fの6グループに分かれてワークショップが進められました。

①地域資源：地域のSWOT分類 地域を見る目を鍛えよう！

「大月の好きなところ・嫌いなところ」…さらに「実は良いところ」を個人で書き出し、各グループごとに発表、自然の豊かさなど地域資源となりうる地域の強みを確認しながら、嫌いなところ＝ピンチは逆に地元愛を呼び戻すチャンスであることを確認するワークとなった。



働く場所が少ないけどお年寄りが現役で活躍してるね。



星がきれい。何より自然が豊かです。

人情が厚いのも良いところ



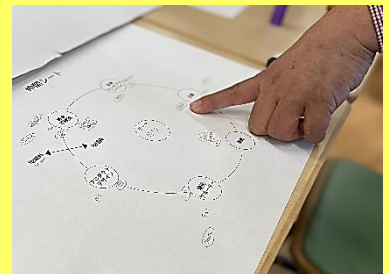
②地域人材の棚卸 仲間シートで「機能」としての人を洗いだそう！

物を作る人、発信する人、応援してくれるサポーターなど地域の内外での、地縁・血縁・友人など様々な人材を個人で洗い出し、グループでストーリーを考えながらまとめるワークを行った。

各グループで特色が出たが、プロダクトに関わる方や広報発信の部分が弱いなど、今後ビジョンマップ作成に対し現在の弱点を浮き彫りにするワークとなった。



市外の方と連携して面白いことができるのでは？



②地域行事の棚卸 地域資源の売り時・PRを意識しよう！

大月市の様々な行事や決まっているイベント（過去・現在）を踏まえて、地域資源をビジネスとして今後打ち出す際の時期や売り方について、想像力を働かせながらシートにまとめていくワークを行った。かがり火のプロジェクションマッピング、正月のジビエなど、地域の資源の強みをどういう流れで打ち出すかの戦略につながるワークとして次回につなげる内容となった。

